

# 晴湖とその弟子たち展

（あ）あ（あ）

「西の鉄斎、東の晴湖」といえば、近代日本南画史上の双璧、富岡鉄斎と奥原晴湖を指します。その晴湖は熊谷に大変ゆかりの深い画家の一人です。

奥原晴湖は天保八年（一八三七）古河に生まれ、その後、関宿藩の奥原源左衛門の養女となり江戸に出て、上野摩利支天横町に住み、号を晴湖としました。山内容堂や木戸孝允ら政界の名士と親交があり、名声を博しました。明治二四年（一八九一）に古河藩領のあった熊谷市上川上に画堂を建設し、隠棲しました。その後も作品への情熱は高く、画力もますます円熟し、大正二年（一九一三）に教えの七七歳で没するまで、多くの傑作を残しました。

その晴湖は自身の作品制作だけでなく、多くの弟子を育てたことでも有名です。奥原晴翠は晴湖の門弟中で最も活躍した人物です。一五歳の時に晴翠の号を許され、晴湖の養女となり、昭憲皇太后の御前で揮毫するなど中央画壇で活躍し、多くの作品を残しました。渡辺晴嵐は一六歳の時に入門し、晴湖の没した大正二年までの四四年間、片時も晴湖の元を離れずに世話をした、実直な弟子です。晴湖の粉本を模写して修業し、画力を研鑽しました。野中南湖は中奈良の生まれです。幼少より絵を好み、明治二六年に晴湖の弟子となりました。日本美術協会の展覧会に出品して入賞するなど活躍しました。瀧脇晴華は晴湖の最後の弟子です。南湖らとともに男弟子で、明治四二年に入門しました。昼は熊谷中学校に通い、夜は晴湖の元で絵の修業をしました。晴湖没後は晴嵐に師事し、多くの作品を遺しました。

今回展では所蔵品を中心に、晴湖とその弟子たちの作品を展観します。近代日本絵画の主流の一つであった南画の、そのトップに君臨した奥原晴湖とその弟子たちの作品から、水墨の持つ美と風雅、そして絵画の持つ魅力を感じていただければ幸いです。

会期 平成二八年三月八日（火）

～五月二九日（日）

〔休館日 毎週月曜日（祝日を除く）、3/22、4/1、5/6〕

会場 熊谷市立熊谷図書館 郷土資料展示室

（熊谷市立文化センター三階）

時間 午前九時～午後五時

主催 熊谷市立熊谷図書館

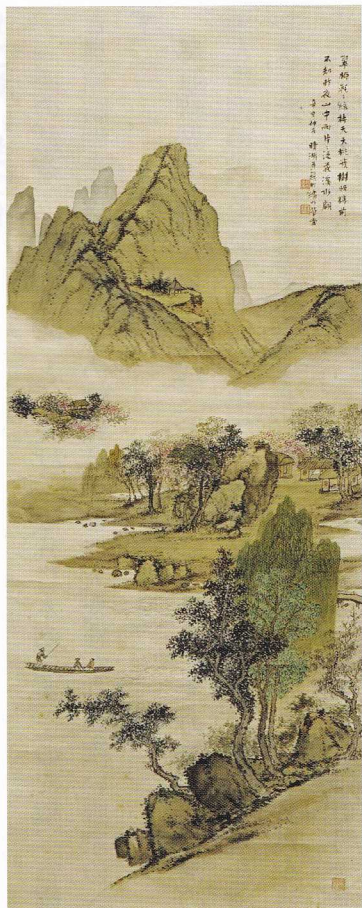
住所 熊谷市桜木町二二三一二  
電話 ○四八―五二五―九四六三



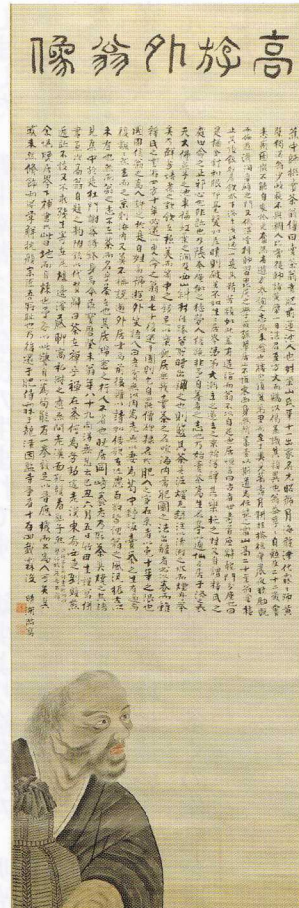
江村春色 奥原晴湖 大正元年



松上野鷹図 奥原晴湖 明治元年



柳桃花岸図・天香書屋図（二幅対） 奥原晴湖 明治44年



高游外翁像及伝 奥原晴湖



山水 奥原晴翠



青緑山水図 滝脇晴華 昭和20年



柳陰燕子図 渡辺晴嵐 大正2年



山水図 野中南湖